

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 幸楽苑

コード番号 7554 URL <http://www.kourakuen.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 新井田 傳

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長

(氏名) 武田 典久

TEL 024-943-3351

四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	8,396	1.0	352	37.8	373	54.9	181	61.1
21年3月期第1四半期	8,307	—	255	—	241	—	112	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	11.16	—
21年3月期第1四半期	6.92	6.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	20,551	8,428	40.8	516.00
21年3月期	21,452	8,409	39.0	514.79

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 8,387百万円 21年3月期 8,367百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期	17,277	0.8	906	△4.2	918	0.0	381	0.4	23.44
連結累計期間	34,417	0.4	1,801	1.3	1,814	4.4	599	15.4	36.87
通期									

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 16,268,441株 21年3月期 16,268,441株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 14,102株 21年3月期 14,102株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 16,254,339株 21年3月期第1四半期 16,254,752株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国の経済は、一部の景況判断で下げ止まりの兆しが見られるものの、依然として世界的な景気後退の影響を受け、停滞感の強い状況で推移いたしました。また、企業業績の悪化による雇用や所得に対する先行き不安から、消費マインドが低迷し、個人消費も低調に推移いたしました。

外食産業におきましても、景気停滞による生活防衛意識の高まりから外食機会が減少する一方で、競合他社との競争も激化しており、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、より安く・よりおいしい商品提供により顧客満足度を高め、既存店客数前年比を回復させることを最重要課題とし、低価格戦略を継続するとともに店舗QSCレベル向上に取り組んでまいりました。また、収益性及び利益率の改善に向けた諸施策を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期の業績につきましては、売上高は8,396百万円（前年同期比1.0%増）の増収となり、営業利益は352百万円（同37.8%増）、経常利益は373百万円（同54.9%増）、四半期純利益は181百万円（同61.1%増）と大幅な増益となりました。

また、当第1四半期末のグループ店舗数は426店舗（前年同期比10店舗増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(1) ラーメン事業

ラーメン事業においては、店舗従業員に対する調理資格制度（マイスター制度）を導入し、各種マイスター取得者を計画的に育成することで、主力商品（らーめん・ギョーザ・チャーハン）の品質向上に取り組んでまいりました。当第1四半期末において、ギョーザマイスターを約5,500名、チャーハンマイスターを約2,000名育成しており、今後は麺マイスターの育成に着手する計画になっております。また、サービスレベル向上と客席回転率向上を目的とし、サービスオペレーションの見直しを進めております。さらに、東北・関東を中心とした東日本地区において創業価格フェア（焼ギョーザ105円セール）の実施や、関西・東海地区を中心とした西日本地区においてランチメニュー・ディナーメニューを導入する等、地域・店舗特性に応じた販売促進やメニュー開発・導入を実施し、既存店売上・客数の増加に努めてまいりましたが、厳しい経営環境の影響を受け、当第1四半期における直営既存店の客数は、前年同期比3.1%の減少、直営既存店の売上高は、前年同期比2.8%の減少となりました。

店舗展開につきましては、既存店の立て直しを重視していることから、当期は新規出店数を抑制する計画になっており、当第1四半期においては、新規に直営店「幸楽苑」2店舗、地域別には新潟県及び山梨県へ各1店舗を出店いたしました。この結果、当第1四半期末の店舗数は、直営店398店舗、フランチャイズ加盟店25店舗の合計店舗数423店舗（前年同期比10店舗増）となり、業態別には「幸楽苑」423店舗となりました。

生産設備関連では、京都工場（京都府京田辺市）において新たにチャーハン生産ラインを稼働させ、店舗への自社製品導入を順次進めております。これにより、主要食材となる麺・ギョーザ・チャーハンが内製化されることになり、味・品質における同業他社との差別化を可能にするとともに、大幅な原価低減に繋がる見通しとなっております。

この結果、売上高は8,305百万円（前年同期比1.2%増）となり、営業利益は657百万円（同54.0%増）となりました。

(2) その他外食事業

その他外食事業においては、うどん及び和食に特化し、来店頻度の向上と利益率の改善に努めてまいりました。また、2010年1月を目処に1店舗をハンバーグ業態へ転換することとして準備を進めております。

店舗展開につきましては、新規出店を抑制しており、当第1四半期末の店舗数は、直営店3店舗、業態別には「和風厨房伝八」3店舗となっております。

この結果、売上高は74百万円（前年同期比1.5%減）となり、ハンバーグ業態転換に向けての調査・準備費用が発生したことから営業損失が10百万円（前年同期は、営業損失0.3百万円）となりました。

(3) その他の事業

その他の事業は、建築施工管理及び厨房機器等の販売、損害保険及び生命保険の代理店業務、広告代理店業務から成っております。

グループ内の求人活動を見直し、求人媒体作成費用が減少したこと等による広告代理店業務の売上高減少から、売上高は73百万円（前年同期比55.0%減）となり、営業利益は7百万円（同72.7%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて838百万円減少し、3,196百万円となりました。これは、現金及び預金が763百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて62百万円減少し、17,355百万円となりました。これは、建設協力金が86百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて901百万円減少し、20,551百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて668百万円減少し、6,113百万円となりました。これは、未払法人税等が421百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて251百万円減少し、6,010百万円となりました。これは、長期借入金が262百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて920百万円減少し、12,123百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて18百万円増加し、8,428百万円となりました。これは、主に利益剰余金が18百万円増加したことなどによります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月14日発表の業績予想から変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,165,375	2,928,474
売掛金	134,262	163,173
たな卸資産	237,327	203,795
その他	659,260	739,165
流動資産合計	3,196,226	4,034,609
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,794,752	4,825,992
土地	3,954,241	3,954,241
その他(純額)	1,822,112	1,762,310
有形固定資産合計	10,571,106	10,542,543
無形固定資産	145,656	147,821
投資その他の資産		
建設協力金	2,701,119	2,787,578
敷金及び保証金	2,217,568	2,220,979
その他	1,720,818	1,720,086
貸倒引当金	△1,184	△1,175
投資その他の資産合計	6,638,322	6,727,469
固定資産合計	17,355,084	17,417,835
資産合計	20,551,310	21,452,444
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,557,163	1,575,614
1年内返済予定の長期借入金	1,695,632	1,747,352
未払法人税等	69,344	490,472
店舗閉鎖損失引当金	4,295	—
その他	2,786,653	2,968,489
流動負債合計	6,113,089	6,781,928
固定負債		
長期借入金	4,614,656	4,877,564
その他	1,395,394	1,383,656
固定負債合計	6,010,050	6,261,220
負債合計	12,123,139	13,043,148

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,661,662	2,661,662
資本剰余金	2,658,098	2,658,098
利益剰余金	3,086,455	3,067,465
自己株式	△19,530	△19,530
株主資本合計	8,386,686	8,367,695
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	684	—
評価・換算差額等合計	684	—
新株予約権	40,800	41,600
純資産合計	8,428,171	8,409,295
負債純資産合計	20,551,310	21,452,444

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	8,307,779	8,396,045
売上原価	2,465,746	2,348,615
売上総利益	5,842,032	6,047,430
販売費及び一般管理費	5,586,406	5,695,082
営業利益	255,626	352,348
営業外収益		
受取利息	18,233	14,641
固定資産賃貸料	15,270	23,571
協賛金収入	18,300	19,050
その他	14,742	21,098
営業外収益合計	66,546	78,360
営業外費用		
支払利息	20,085	26,603
シンジケートローン手数料	41,865	—
固定資産賃貸費用	—	21,031
その他	19,143	9,496
営業外費用合計	81,093	57,130
経常利益	241,079	373,578
特別利益		
投資有価証券評価損戻入益	20,139	31,885
その他	900	800
特別利益合計	21,039	32,685
特別損失		
投資有価証券評価損	10,952	14,377
減損損失	8,915	28,328
その他	3,750	5,306
特別損失合計	23,618	48,011
税金等調整前四半期純利益	238,500	358,252
法人税、住民税及び事業税	50,180	42,160
法人税等調整額	75,683	134,558
法人税等合計	125,863	176,718
四半期純利益	112,636	181,534

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	238,500	358,252
減価償却費	155,203	183,612
減損損失	8,915	28,328
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	—	4,295
受取利息及び受取配当金	△21,153	△17,058
支払利息	20,085	26,603
シンジケートローン関係諸費用	41,865	—
売上債権の増減額(△は増加)	△6,292	28,910
たな卸資産の増減額(△は増加)	△59,608	△33,531
仕入債務の増減額(△は減少)	76,724	△128,890
未払費用の増減額(△は減少)	△103,862	△210,347
その他	△26,498	76,961
小計	323,879	317,135
利息及び配当金の受取額	10,922	2,709
利息の支払額	△9,468	△19,624
法人税等の支払額	△394,424	△438,941
その他	—	△1,479
営業活動によるキャッシュ・フロー	△69,091	△140,199
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△54,000	△1,073,000
定期預金の払戻による収入	1,692,000	96,000
有形固定資産の取得による支出	△221,719	△153,388
投資有価証券の取得による支出	—	△21,000
敷金及び保証金の差入による支出	△46,948	△17,726
敷金及び保証金の回収による収入	20,510	21,137
建設協力金の支払による支出	△116,930	△17,800
建設協力金の回収による収入	77,185	74,862
その他	△15,670	△5,948
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,334,427	△1,096,864
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	—	△25,863
長期借入金の返済による支出	△165,888	△314,628
配当金の支払額	△162,547	△162,543
その他	△120	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△328,555	△503,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	936,779	△1,740,098
現金及び現金同等物の期首残高	1,343,634	2,685,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,280,414	945,775

